
『人間、売ります、買います』

暁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『人間、売ります、買います』

【Nコード】

N2765BA

【作者名】

暁

【あらすじ】

俺は金が欲しい。だから人身売買のサイトに登録した。

最初に俺を買うのは誰だろう？

登録（前書き）

この作品は作者がストレス解消のため書いたもので、次回更新未定です。でも、いつかは続き書きます。

登録

俺は悩みを持ち続けている。多分誰もが持っている悩みだろう。その悩みとは…金がない事だ。

金さえあればいろんな事ができる。欲しい物も買える。だから金が欲しい。

そんな悩みを持ち続けているある日。俺は友人からあるサイト名を聞いた。

「なあ、『人間、売ります、買います』ってサイト知っているか？」
「知らね。何それ？」

「人身売買の闇サイトさ。用途や性格を入力すると、買う時は、自分の好みに合わせた人間が出てくるんだぜ。俺はこれで彼女をゲットした」

「お前金あるのかよ」

「1人以上にこのサイトを教えると、1人タダで買えるんだ」

「へー」

俺は買うより売りたいな。金ないし。

「面白そうじゃん。サイトの行き方教えてよ」

「Ok」

友人に教えてもらった通りに、ケータイでサイトにいった。

「表向きは薬品会社なんだ」。えっと、会社案内から商品案内いつて、スタッフ紹介からの会社ロゴクリックつと」

手順を終えると、画面が暗くなり、パスワード画面が表示された。

「パスワードって言っても、教えてもらったあいつの名前とID入れるだけなんだけどな」

入力すると、『人間、売ります、買います』の名前が現れた。

「おっ、これか。早速査定してもらお」

い
』

『あなたの名前、性別、年齢、職業を入力してください』

『三木谷 真。男。15才。学生』

『何をご利用になりますか？』

『査定』

『誰を売りたいのですか？』

『俺』

『裸になって、顔のアップと全身を撮ってください』

さい
』

『Ok』

俺は書かれた指示に従い写真を撮り、サイトに送った。

『受信致しました。後日、連絡いたします』

「…もう終わりが。あれ？メールアドレス入れてないけどいいのかな？」

後日、電話が来た。

「真ー、御田矢薬品ってところから電話ー」

「はい」

俺は電話を代わる。

「もしもし？」

「初めまして。真様ですね。査定の事でお話があり、お電話させて頂きました」

「……なんで俺の電話番号知っているんですか？」

「申し訳ありません。調べさせていただきました」

「……」

あれだけの情報で、電話番号調べられたんだ。

「自社の住所はご存知ですよね」

「あっはい」

「今から来れますか？」

「いいですよ」

「では、お待ちしております」

電話を切ると、母が不思議そうに尋ねた。^{たず}

「今の電話何？」

「ネットで募集してた、健康食品のお試しモニターにあたったんだ。直接会ってアンケートしたいって言ってたから、行ってくる」

「そう……いつてらっしゃい」

「ん、いつてくる」

会社に行ってみると、意外とデカかった。

「凄いな……」

上の方を見ていると、声を掛けられた。

「三木谷様ですか」

「あ、はい」

声を掛けたのは、男だった。しかも、顔の上半分は美しい仮面で隠されている。

「何かご用はありますか？」

「いや、特に……」

仮面のこと聞いたら、機嫌悪くするだろうな。

「では、行きましようか」

「はい」

会社に入り、エレベータに乗った。男の手元を見ると、10階、3階、5階、4階、8階の銃版にボタンを押した。すると、エレベータは表示されていない地下に向かった。

「……」

「申し遅れました」

「えっ」

「私はこの会社で、主に査定や買い取りを担当しています。ジンです。宜しくお願いします」

「…この会社って、有名なんですか？」

「それなりに」

「でも、みんなは人身売買しているって知らないんでしょう？」

「有名なのは薬品会社の方です。人身売買は1部の人にしか知れていません」

「…その仮面、どうしたんですか？」

「まあ、いろいろとありまして」

「そうですか…」

チン！

「着きましたね」

「何階になるんですか？」

「査定は地下6階です。では、始めましょうか」

俺は専用の場所に行き、査定を始めた。

最初の健康面査定では、別の職員も現れた。

なんだ、みんな仮面を被っているわけじゃないのか。

健康面査定が終わり、質問が始まった。

「あなたの性格は？」

「んー、単純、ボーとすることが多い、プチチャラ男かな？」

「運動は得意ですか？」

「力はあるけど、走るのは遅いな」

「では次は…」

この他にも、いろんな事をたくさん聞かれた。

「最後に…あなたはどんな仕事がいいですか？」

「どんなのがあるの？」

「力仕事、話し相手、実験体、娼婦などがございます」

「へー、いろいろあるんだ。なんでもいいけど、娼婦するなら女性限定で、受けは嫌」

「かしこまりました。では次は、在宅勤務と永住勤務、どちらがいいですか？」

「よくわかんないけど、在宅で」

「そうですか…」

「やっと終わりかな？」

「後日、あなた様の情報を登録します。しばらくお待ちください」

「Ok」

「わかっていていると思いますが、この事はサイトの登録者以外、誰にも言わないでください」

「言ったらどうなるの？」

「あなたの存在自体を消去いたします」

「……」

怖いこと普通に言っただし…。

「今日はご協力ありがとうございました」

「こちらこそありがと…で、いいのかな？」

「合っていると思います」

あとから聞いた話では、俺の情報は俺の住んでいる地域から遠くに
いる人しか見れないらしい。

最初に俺を買うのは誰だろう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2765ba/>

『人間、売ります、買います』

2012年1月7日00時45分発行